

一般財団法人 最先端表現技術利用推進協会

第1期事業報告書

(平成25年12月3日から平成26年11月30日まで)

東京都港区港南2-15-1
一般財団法人 最先端表現技術利用推進協会

I 基本方針

先端表現技術の調査研究およびそれらを活用したコンテンツ開発を支援することを目的として設立され、それらの技術開発者、利用者(クリエイター等を含む)などの人材育成はもとより、新たな表現技術の活用を通して社会へ貢献。関連分野の枠を超えた英知を集結することで、これまでにない新しい表現方法を構築することを目指す。

主な活動内容・計画

- ・最新技術の利用促進セミナー、ワークショップ、シンポジウム、コンテスト等の開催
(普及・啓蒙、教育活動)
- ・表現技術に関する資格試験の実施や人材育成(普及・啓蒙・教育活動)
- ・展示会・学会等への参画(普及・啓蒙・教育活動)
- ・国内外視察・見学・研修(研究開発活動)
- ・会員募集、情報発信(宣伝・広報活動)
- ・最新技術を利用した表現プロジェクトの支援(コンサルティング業務)
- ・図書出版、執筆

II 事業活動

1. 普及・啓蒙、教育活動(公益目的事業 1)

1.1 最新技術の利用促進セミナー、ワークショップ、シンポジウム、コンテスト等の開催

(1)最先端技術と3DVRを活用するセミナーを後援

株式会社フォーラムエイト東京本社セミナールームにて開催された、3D プリンタ、ウェアラブルデバイスとUC-win/Roadとの連携システム、3Dプロジェクションマッピングなど、3DVRを活用した最先端の技術を紹介するセミナーを後援。会長の町田氏、事務局の羽倉氏が講師を務めた。

- ・3D プリンティング&VR セミナー 2014年 5月 30日、7月 30日
- ・3D ステレオ・ウェアラブル&VR セミナー 2014年 6月 19日、8月 22日
- ・3D プロジェクションマッピング&VR セミナー 2014年 6月 11日、9月 30日



(2)ジュニアソフトウェアセミナー「バーチャルな3次元空間を作ろう！」(2014年8月5日～6日)

日本全国の株式会社フォーラムエイトの拠点にて開催された小中学生向けセミナーに表技協として協力。夏休みの研究、学習課題のテーマに3次元のバーチャルリアリティ(VR)を使用する機会として、ワークショップ形式で実施された。本セミナーは第2期においても、冬休み、春休み、夏休み企画が予定されている。



(3) プロジェクションマッピングサマーワークショップ in 白馬を開催(2014年8月18日～19日)

NPO 地域づくり工房と表技協が共催したワークショップを長野県の白馬村で開催した。シンク・デザインおよびコロレの協賛で、大型プロジェクターやレーザーによる講師陣によるデモンストレーションも実施。参加者へのアンケートでは、講義編、実習編、BBQ などのイベント合わせて、ほぼ全員が満足との結果が得られた。BBQ や山頂での投影ロケハン実習など、都会とは一味ことなる大自然を生かした講義プログラムが好評であった。

参加者 : 4名(講義編24名、実習編20名)

内訳 : メーカー(2名)、学生/教員(8名)、映像/デザイン制作会社(5名)、地域開発/自治体(5名)、他(4名)



(4) 第3回プロジェクションマッピングワークショップを開催(2014年11月21日、11月28日、12月1日)

座学での知識習得だけではなく、実際にプロジェクションマッピングのコンテンツ制作からイベントの実施(設置・運営)までを体験できる実践型のワークショップとして、1部の2D制作/発表と、2部の3D制作/発表のふたつのコースで構成。1部の2D制作は、ビジュアルメディア Expoでの実際の投影体験付きで、11月下旬から実施された。12月に実施された2部の3D制作は、大晦日の円融寺イベントでの作品投影がアウトプットとして設定されている。



1.2 展示会・学会等への参画

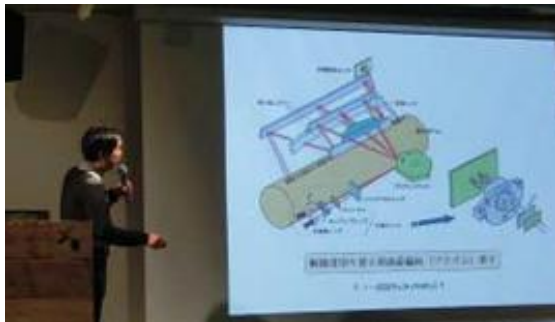
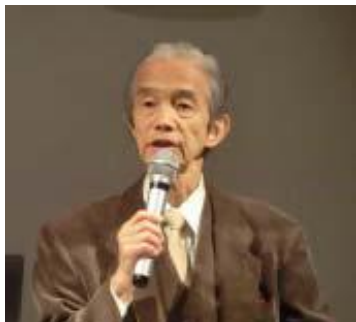
(1) 2013年度デジタルハリウッド大学 メディアサイエンス研究所研究発表会(2013年11月21日)

当協会事務局の羽倉弘之氏が大学院にて特任教授を務めるデジタルハリウッド大学が主催し、産学連携を意識した人材育成や人材マッチングの一環として同大学にて実施された研究発表会であり、その中で羽倉氏と会長の町田氏が「最先端表現技術利用推進協会」の発足について発表。今後の活動の展望として、異なる様々な分野から広く人材を募る旨もアピールを行った。



(2)最先端映像技術&ホログラフィシンポジウム(2013年12月7日)

共催:御茶ノ水のデジタルハリウッド大学で開催された「三次元映像のフォーラム」に、表技協はホログラフィック・ディスプレイ研究会、三次元映像のフォーラムと共催で参画。ホログラフィの紹介と展示および、事務局の羽倉氏による最先端技術についての講演が行われた。



2. 研究開発活動(公益目的事業 2)

2.1 国内外視察・見学・研修

(1)国際 VR シンポジウム第 5 回 サマーワークショップ in ハワイ(2014年7月8日~11日)

Hilton Hawaiian Village のカンファレンスルームを会場として開催された国際 VR シンポジウムに、表技協より町田会長が参加。最先端表現技術の利用についての講演および、プロジェクションマッピングのワークショップ支援で参加した。ワークショップはアリゾナ州立大学の小林佳宏氏が企画し、慶応大学、大阪大学、ハーバード大学、バーレーン大学、ニュージャージー工科大学、ジョージア工科大学などから多数の研究者が参加。オアフ島の地形データを抽象化したオブジェクトを制作し、そのオブジェクトと部屋のコーナーの壁に投影する映像で作品を作り上げた。



(2)SIGGRAPH 2014 バンクーバーに出展(2014年7月8日~11日)

表技協は株式会社フォーラムエイト出展ブースの一角に設けられたコーナーに作品を展示。会員および会長が制作に参加した立体視対応のプロジェクションマッピング作品「THE 3D BOX」をデモンストレーション展示し、立体視に対応したプロフェッショナル向けのテクニカルサービスの提供が可能であることをアピールしました。この作品は、海外のプロジェクションマッピングの著名サイト“Projection Mapping Central”の取材を受け、紹介されました。

Projection Mapping Central での紹介: <http://projection-mapping.org/stereoscopic-mapping-ambient-media/>



3. 宣伝・広報活動(公益目的事業 3)

3.1 会員募集、情報発信

当報告書の 1 および2で記載したような、最先端技術の活用に関連のある学会、シンポジウム、研究会、展示会等で、表技協の活動内容や展望について講演、展示等を通して広報・宣伝活動を実施。併せて会員募集も募った。また、表技協公式 HP を公開し、活動レポート等掲載を行っている。

表技協 HP:<http://www.soatassoc.org/index.htm>

4. コンサルティング業務(収益目的事業 1)

4.1 「災害リスクの可視化とデジタルサイネージによる視聴体験アンケート調査」監修(2014年1月31日)

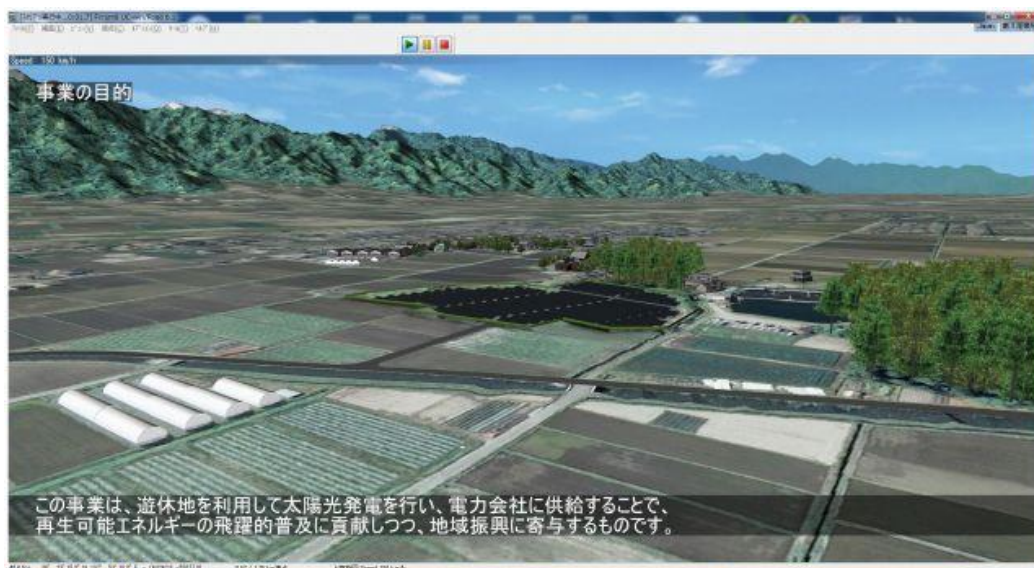
株式会社フォーラムエイトで実施された、「災害リスクの可視化とデジタルサイネージによる視聴体験アンケート調査」の監修を行った。これは災害リスクに関する臨場感ある可視化画像(動画、静止画)を作成し、学生と社会人による被験者に、大画面を使って体験させることで、リスクの認知と共有を図り、災害対策等について議論することでデジタル技術の可能性や課題を把握するものであり、東京都市大学 吉川弘道教授の指導のもと、NPO 地域づくり工房代表の傘木宏夫氏がファシリテータを務め、学生5名、社会人5名を対象として実施された。



4.2 「伊那市西春近南地区・太陽光発電所計画 自主簡易アセスメント」

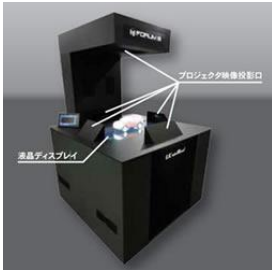
長野県伊那市西春近南地区に計画されている太陽光発電所(約 460kW)について、その周辺環境への影響をシミュレーションし、適切な対策を図ることを目的としたプロジェクトに協力。NPO地域づくり工房が業者と地元住民等との相互理解を容易にするファシリテータとしての役割を担った。

評価書案:<http://npo.omachi.org/works/harutika/>



4.3 最新技術を利用した表現プロジェクトの支援

研究開発委託事業、指定特定資産による開発プロジェクト受託として、「プロジェクションマッピングテーブル」の開発に着手。2014年12月開催の「人とくるまのテクノロジー展」での展示を目的として、株式会社フォーラムエイトとの共同で研究開発が進められた。本装置は、高度なプロジェクションマッピングを手軽に活用するために開発された「汎用の全周プロジェクションマッピングテーブル」である。プロジェクターとテーブルが一体化されており、テーブル中央に置かれた造形物に周囲4方向と上部からの合計5方向から映像を投影し、かつ造形物が置かれている床面には液晶ディスプレイが埋め込まれており、ここにも映像を表示することができます。中央に置かれた造形物は6方向からの映像に包まれることになり、その結果全周に映像を投影することが可能となる。



5. 図書出版、執筆(収益目的事業2)

5.1 書籍への執筆参加

「行動、安全、文化、「BeSeCu」～緊急時、災害時の人間行動と欧州文化相互調査～」

(2014年11月フォーラムエイトパブリッシング刊行)

避難解析研究の世界的権威であるE・ガリア氏(英国グリニッジ大学教授)編著書の日本語翻訳版に増補して、専門家による避難行動についての日本国内研究事例を紹介した書籍。この国内事例のひとつ「防災、安全、安心における表現技術活用」について、表技協として執筆参加。原稿執筆は傘木宏夫氏(NPO 地域づくり工房)が行った。



一般財団法人 最先端表現技術利用推進協会 概要

事務局

住所 〒108-6021 東京都港区港南 2-15-1 品川インターシティ A 棟 21F 株式会社フォーラムエイト東京本社内

電話 03-6711-1955 FAX 03-6894-3888

E-mail info@soatassoc.org URL <http://www.soatassoc.org/>

設立趣旨・目的

本協会は、以下を支援することを目的に設立されます。

- ・最先端表現技術の調査研究
- ・最先端表現技術を利活用したコンテンツ開発支援

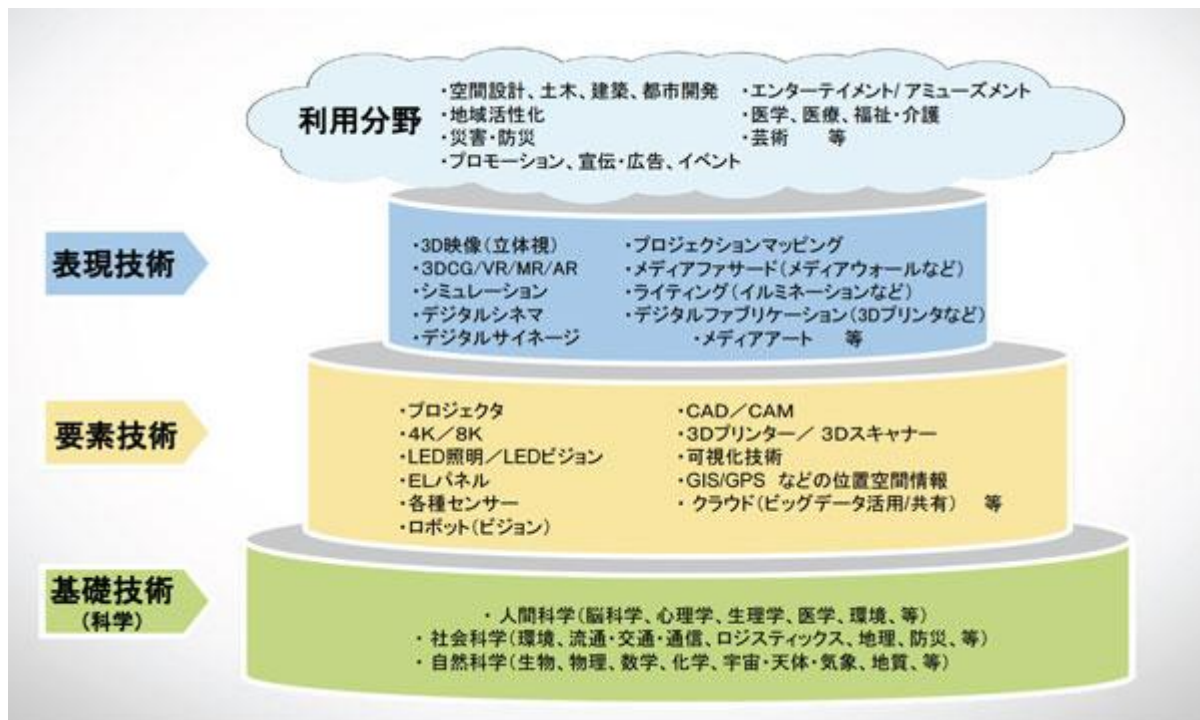
本協会は、以下を通して社会へ貢献します。

- ・最先端表現技術の技術開発者の人材育成
- ・最先端表現技術利用者(クリエイター等を含む)の人材育成
- ・そのほか新たな表現技術の活用を通じた社会貢献

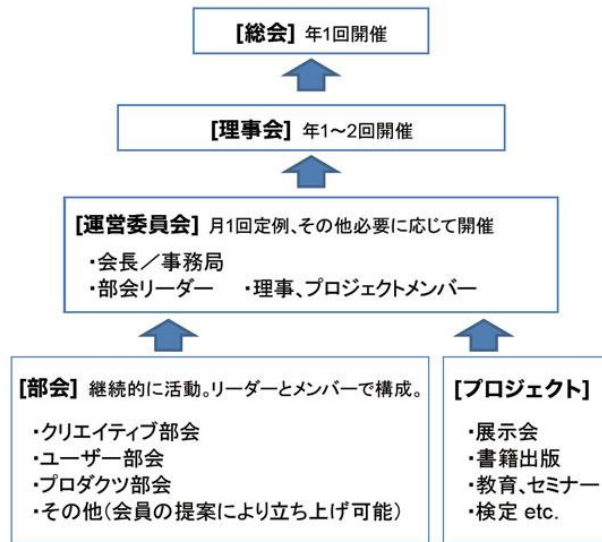
本協会は、以下を通して産業と文化の融合を図ります。

- ・最先端表現技術の活用に意欲のある会員同士のマッチング
- ・最先端表現技術の活用に必要な分野を超えた企画提案

活動内容



表技協組織図



役員

理事長	伊藤 裕二	(株式会社 フォーラムエイト 代表取締役社長)
会長	町田 聡	(アンビエントメディア代表/プロジェクションマッピング協会アドバイザー)
事務局	羽倉 弘之	(三次元映像のフォーラム代表/デジタルハリウッド大学大学院 特任教授)
評議員	武井 千雅子	(株式会社 フォーラムエイト 代表取締役副社長)
理事	川村 敏郎	(株式会社 フォーラムエイト 特別顧問、元 NEC 副社長)
理事	小林 佳宏	(アリゾナ州立大学 プリズム研究所/ FORUM8 AZ 代表)
監事	松田 克巳	(株式会社フォーラムエイト 執行役員)

会員

●法人会員:

株式会社富士通総研
日本フォームサービス株式会社
レバトロン株式会社
トヨタコミュニケーションシステム
スマートスケープ株式会社
株式会社フォーラムエイト

●個人会員:

町田聡(アンビエントメディア)
羽倉弘之(デジタルハリウッド大学大学院)
宮澤篤(東京工芸大学)
吉川恒平
須藤理枝子(さがみはら産業創造センター)
金澤知恵(さがみはら産業創造センター)
阿部信明
中村新市(シンク・デザイン)
佐藤翔太
北口真(株式会社 Mind Free)

田上暢顕

似内雄一郎

大崎榮佐(株式会社富士通総研)

富田和久(株式会社ピー・ビーシステムズ)

大久保明(株式会社 VIBE)

泉尾祥子(広島ホームテレビ)

渡辺雄志

和田智英(筑波技術大学)

紅林邦昭(シムパックジャパン株式会社)

●情報会員

飯田勝

橋本敏邦

表技協会員サービス一覧

種別		法人会員	個人会員	情報会員	
年会費		120,000 円	6,000 円	3,000 円	
サービス	HP	会員リストへのリンク掲載	●	●	—
		ニュースへの情報の掲載	●	●	—
	メールリングリスト	会員メールリングリストへの登録	●	●	●
		メールリングリストでの会員への情報告知	●	●	—
	セミナー	聴講のみ	3 人/年	1 人/年	1 回無料
		講演	3 回/年	1 回/年	—
	コンサルティング	マッチング(人、機材)	●	●	—
		アドバイス	3 回/年	1 回/年	—
	設備・機材	提供可能	●	●	—
		使用可能(会員価格)	●	●	—
	部会への参加・立上げ提案		●	●	—